

「日々の理科」(第 4036 号) 2025, -8, 25

## 「北海道一周鉄道旅行 (37)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「道南いさりび鉄道」で乗ったのは、「キハ 40 型」という気動車(ディーゼルカー)でした。かつては日本各地で見られ、八高線を走っていた時期もあります。現在は数を減らしましたが、北海道の一部や、地方私鉄で活躍していて、関東では千葉の「小湊鉄道」で走り続けています。海外に譲渡された車両もあり、ミヤンマー、タイでも見られるそうです。



車内には形式名表示のステッカーのほか、「便所使用知らせ灯」という、ちょっとなつかしい装備も残っていました。



(国土地理院地形図)

函館(新函館北斗)～木古内間には北海道新幹線も走っていますが、ほとんどトンネルの中です。新幹線の車窓から函館市街地や函館山はほとんど見えません。しかし旧在来線の道南いさりび鉄道は、ほぼ海岸線ぎりぎりを走っています。もちろん新幹線よりもずっと遅く走るので、景色をゆっくり楽しめるのです。



さっそく、函館湾越しの遠くに函館山が見えました。思ったよりも平らに見えます。



「茂辺地駅(もへじえき)」に着きました。「もへじ」は「へのへの・もへじ」とは無関係で、アイヌ語の「静かな川」といった意味だそうです。



数分間停車するというので、ホームに降りてみると、木古内方面への貨物列車とすれ違いました。この貨物列車は青函トンネルを越えて、首都圏や関西まで行くのです。新幹線の開通後も在来線が残っているのは、旅客輸送だけでなく、北海道～本州間の貨物輸送の需要が非常に大きいからです。この日も函館に着くまでに3本の貨物列車とすれ違いました。



やがてすっかり日が暮れました。函館が近づき、函館山や市街地の灯火が美しかったです。結局この列車、茂辺地駅までは私だけ、その後も3人の乗客が乗っただけで、またもや「貸し切り」に近い列車でした。



函館駅に着きました。この駅には新幹線は来ないのですが、近代的で立派な駅舎になっていました。中には乗降設備のほか、大きな売店、コンビニ、観光案内所、宅急便営業所、それに駅に併設されたJRのホテルもあります。



「雪の函館駅」(画；C.Tanaka)

かつて青函連絡船が健在だった頃の函館駅は、赤屋根の2階建ての古風な駅舎で、いかにも「北海道の玄

関駅」という雰囲気を見せていました。



函館では現在も路面電車(市電)が活躍しています。かつては今よりも路線が多く、私の友人の家の前にも通っていたのですが、現在は2系統(湯の川～谷地頭)と5系統(湯の川～函館どつく前)の2つの系統だけです。停留所は26あります。



「雪の函館市電」(画；C.Tanaka)

函館市電は雪の日が似合います。画は函館駅前停留所付近から見た函館山です。



ホテルは電停「松風町」の近くでしたが、私は函館駅から歩きました。ホテルの部屋からは、函館市街と函館山が見えました。いよいよ明日は東京に帰ります。